

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577200920		
法人名	有限会社 龍 泉		
事業所名	グループホーム 秀東館 虹		
所在地	山口県岩国市周東町下久原1733		
自己評価作成日	平成29年11月15日	評価結果市町受理日	平成30年6月21日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の建物は現代建築による高い天井や天窓からの自然な光や風を取り込む事ができ、解放感を感じることができ、明るく心が和む造りとなっています。現代社会が忘れかけている家族の温かさを大切にして、ひとつ屋根の下で違った個性を持った人々が集まり生活をする。入居者は私達の父であり母である。また入居者同士は兄弟姉妹でもある。私達が目指す【大家族主義】の理念を基に、共同生活住居(グループホーム)において、食事・排泄・入浴等の介護や日常生活上のお世話をし、能力に応じて手を出し過ぎず、自立した生活が送れるよう取り組んでいます。また入居者を基として、ご家族や地域住民と交流を図り、率直な声を聞くことができるような体制づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の栄養士によるバランスのとれた献立で三食とも食事づくりをされています。地元で採れた玄米を1年分確保され、精米した米でご飯を炊いたり、毎日の食材を利用者と職員と一緒に買物に行かれ、家族からの差し入れの野菜や旬の食材を使って調理されています。利用者は野菜の下処理やテーブル拭き、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にされています。利用者と職員は同じテーブルで同じ物を食べておられ、季節ごとの行事食やおやつづくり、誕生日の希望メニュー、月1回の外出など、食べることを楽しみをいろいろ工夫して支援されています。花見(桜、梅、あじさい、コスモス、ばら)、ミカンやぶどう、いちご狩り、田んぼアート見学、ドライブ(岩国防災センター、下松スポーツ公園、中山ダム湖など)、などの他、家族の協力を得られて、結婚式への出席や一時帰宅、家族との外出など、外出の機会も多く、利用者一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるように支援しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印				
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと			
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない			
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように			
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度			
			3. たまにある				3. たまに			
			4. ほとんどない				4. ほとんどない			
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない			
			4. ほとんどいない				4. 全くいない			
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない			
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が			
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが			
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが			
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない			
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が							
			2. 利用者の2/3くらいが							
			3. 利用者の1/3くらいが							
			4. ほとんどいない							

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に行うミーティングの場で【大家族主義】の理念を理解して、入居者は馴染みの関係の中で、その人らしく暮らしていけるように、職員は入居者を自分の家族の一員として支えていけるようなサービスの実践に努めている	事業所独自の理念を事業所内に掲示している。管理者は、理念について職員に説明し、毎日のミーティングやユニット会議で確認して共有し、理念を実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に向けて事業所の情報を発信して、季節毎の行事(お花見・花火鑑賞会・運動会・クリスマス会)に参加をして頂きながら交流を図り、また地域の行事(清掃活動・敬老会)へも積極的に参加をして交流を図っている	年1回の清掃活動に管理者が参加している。利用者は職員とスーパーに食材の買物に出かけたり、近所に散歩に出かけ、花をもらっているなど地域の人と交流をしている。神社の春と秋の祭りに参加したり、地域の敬老会に利用者数名が参加している。法人施設合同の運動会に地域の人が参加して一緒に競技したり、保育園児が参加してダンスをしている。地域の花火大会を家族や地域の人と施設内で見物しているなど、交流している。傾聴や日本舞踊、フルート演奏、マジックショー、文化祭のコンサートなどでのボランティアの来訪や中学生の来訪がある。毎月地域向けの事業所だよりを自治会(7班)に回覧して、季節ごとの行事への参加を呼びかけ、地域の人や子供の参加があり、利用者と交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々の相談相手になれるよう交流できる機会を設け、運営推進会議においては現状報告や、認知症に関連した研修の紹介をしながら意見交換を行い、地域から出された相談等に応じている			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価を通じて自分達が行っている支援を振り返り見直しを行うことができることを説明している。評価における問題点を見極め、問題解決に向けて各人がスキルアップできるよう取り組んでいきたい	管理者は、職員に評価の意義を説明し、管理者と計画作成担当者が自己評価を作成し、職員の意見を聞いてまとめている。前回の外部評価結果を受けて、全職員での自己評価への取り組みを目標達成計画に掲げているが、全職員での取り組みにまでは至っていない。	・全職員による自己評価への取り組み	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の取り組みの報告や意見交換だけでなく、起きた事故等の報告も行い推進委員からは率直な意見を頂き、より安全なサービス向上に活かせるように取り組んでいる	2ヶ月に1回会議を開催し、利用者の状況、事業所の活動報告、入退去の状況、行事案内、職員研修、事故報告、外部評価への取り組み状況などについて報告を行い話し合っている。外部からのクレームの電話への対応など、メンバーの意見を聞き、改善に向けて取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者と日頃から連絡をとり、事業所の実情を報告して相談している。また岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会で出された意見等は市町担当者に伝えて協力関係を築けるよう取り組んでいる	市の担当者とは電話や出向いて行き、相談をして助言を得たり、情報交換をしているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に相談したり、助言を得ているなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の裏が国道となり安全面でやむを得ず玄関のみ内からは開かない仕組みをとっているが、身体拘束によって受ける身体的・精神的苦痛は研修を行い理解していけるよう取り組んでいきたい	内部研修で身体拘束について学び、職員は理解して、抑制や拘束のないケアに努めている。外へ出たい利用者には、職員と一緒に出かけたり、気持ちを切り替える言葉かけを行うなどの配慮をしている。スピーチロックの研修を行い、職員アンケートを実施し、職員は自らの言動について振り返っている。利用者への制止の言葉（やめて、ちょっと待って等）に気をつけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県や市町の研修に参加して得た情報は職員全体に報告して、不適切な支援が当たり前にならないよう注意を払い、虐待防止に努めている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が後見制度を利用できるように関係機関への橋渡しをしている。権利擁護に関する制度の理解ができるように都度説明の機会を作っている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所の重要事項の説明や契約には十分時間をかけて、納得した上で契約を交わすよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情の受付体制等においては契約時に説明を行い理解を得ている。また意見や要望を出して頂けるよう相談しやすい環境作りに努めている。年一回は家族会を開き、家族間での要望を出して頂く等、他意見交換としての場を設けている	苦情相談窓口及び担当者、外部機関、苦情処理処理手続きを明記し、契約時に家族に説明している。毎月家族に写真を掲載して便りを出したり、行事の案内を出している。面会時や電話、運営推進会議時、年1回の家族会で家族からの意見を聞いていると、家族からの意見が出やすい関係づくりに努めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のユニット会議には代表者が参加して職員の意見を直接聞ける場を設けている。また日々のミーティングでは職員で勤務体制等の検討をしている	月1回の全体会議やその後の各ユニット会議、毎日のミーティングで職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。出た職員の意見や提案は集約し、月1回開催している法人の幹部会で報告し、検討している。職員から重度化に対する利用者の入浴支援の在り方や精米機の購入等の意見があがっている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の努力や具体的な実績(資格取得)、勤務状況等を把握して、処遇に反映させ向上心をもって働けるように環境や条件の整備に努めている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員育成の重要性を認識して、職員一人ひとりの段階に応じた学びの機会を設けている。働きながら技術や知識が得られるように研修内容の相談にのり、内部研修を行いトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、職員に情報を伝え、受講の機会を設けているが、この1年間の参加実績は少ない。内部研修は、年間計画を立て、高齢者虐待、食中毒予防、熱中症予防、緊急時対応、褥瘡防止、感染症予防、接遇等の学習をしている。研修後職員は各自研修報告を提出している。新人職員は、初任者研修を受講し、その後は先輩職員がマンツーマンで指導している。資格取得の際は、受講料を支援している。	・外部研修を含めた計画的な研修の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩国市地域密着型サービス事業者連絡協議会における研修において、他の同業者と交流や情報交換等で連携を図り、サービスの質の向上できるよう取り組んでいる		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と向き合い、おかれている状況を理解するよう心掛け、困っている事や不安な事を探りながら信頼関係づくりに努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の思いだけでなく、家族の思いもしっかり聞いて信頼関係作りに努めている。その際、事業所としてできる事、できない事を説明して納得して頂けるよう努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め、実行に努めている。入居者の状態に応じ、訪問看護の導入やボランティア団体等インフォーマルな支援も導入している		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者は介護する、介護されるといった一歩的な関係を脱し、一緒に過ごし、時間をかけて関わっていく中で深く本人を知り、支え合う関係作りを築いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の苦しみや喜びを受け止め、本人の生活を共に支援していくという関係作りに努めている。また生活の様子や身体状態について細やかに報告して、家族の思いも率直に伝えて頂きながら、共に本人を支えていく体制作りをしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できるだけ地域との接点を持てるように、外へ出かける機会を作り関係が途切れないような支援に努めている。家族の承諾が得られれば、知人等の面会をしてもらっている	友人や知人、親戚の人の来訪がある他、手紙や電話の取次ぎの支援をしている。出張理美容の利用、天神祭や初詣、近くのスーパーへ買物に出かけている他、家族の協力を得て孫の結婚式に参加したり、墓参り、外食、一時帰宅など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団の中で、仲の良し悪しに配慮しながら、孤立することなく、共に暮らしを楽しんで頂けるよう職員が介入して話題作りや作業等を行うよう努めている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても経過を見守り、必要に応じてフォローをしている。また気軽に立ち寄って頂けるような関係作りに努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向について関心を持ち、アプローチして探りながら、職員間で情報交換を行うよう努めている	事業所独自のアセスメント表を活用している他、日々の関わりの中での、利用者の会話や行動をケース記録に記録し、職員間で共有し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方独自のライフスタイルや生活歴を知り、地域の中でどのような関わりをもって暮らし、どんなサービスを利用しながら暮らしていたかの把握に努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中の様子や行動から感じとれるように個別の関わりをもつよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体的・精神的な変化に応じた介護計画が作成できるよう、意見交換しながらアイデアを出し、介護計画を作成している	管理者、計画作成担当者を中心に、毎月1回カンファレンスを開催し、利用者や家族の意見や要望、主治医の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直している他、利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度見直して、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を作成して食事・水分量・排泄状況を共有している。漫然とした記録にならないように支援やその反応は具体的に記載することを心掛けている。月一回のユニット会議で変化における情報の共有に努めている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に医療面においては入居者が安心して安全に暮らしていけるように、かかりつけ医や家族と連携をとりニーズに対応している		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安心して暮らし続けられるように、本人の通っている医療機関や店等を把握して外出の支援をしている。ボランティアを利用しながら楽しみが見いだせるよう支援している		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞いてかかりつけ医を決めているが、事業所の協力医をかかりつけ医とする場合は同意を頂いた上で、適切な医療が受けられるような支援に努めている	本人や家族の希望するかかりつけ医の他、協力医療機関をかかりつけ医とし、他科受診も含めて、家族の協力を得て、受診の支援をしている。月1回、協力医療機関の往診があり、2ヶ月に1回、訪問歯科がある。日頃の健康状態は、利用者を担当している職員が把握し、バイタルの記録は主治医に提供し、受診結果は家族にも報告をしている。夜間や緊急時にはかかりつけ医へ電話で連絡して指示を得て対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常が疑われる場合はかかりつけ医に相談して、一人ひとりが必要とする医療の支援や体調管理に繋げている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の特徴・普段の生活の様子や精神状態を情報として提供している。本人の混乱が少なく、なるべく短期間で退院できるよう協力体制をとっている		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態の変化や事業所の状況の変化に合わせて話し合いの場を設け、方向性が統一できるように取り組んでいる	重度化の指針を作成し、契約時に事業所でできる対応について家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は、家族、かかりつけ医、関係者で話し合い、入所施設や医療機関の移設を含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故防止委員会にて定期的に応急手当等の訓練を行い技術の習得に努めているが、繰り返し行う必要性を感じている。	ヒヤリハット、事故報告書に発生状況を記録し、ミーティングで対応策を話し合っている。毎月のユニット会議で個々に応じた対応策を検討し、法人内幹部会議に報告し、再発防止に努めている。転倒、発熱、のどに物が詰まった場合の実習、AEDの使い方などの対応の訓練を行っている。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力をつけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜通じて様々な災害を想定して避難誘導訓練を行っている。地域住民には避難訓練参加の呼びかけを行い協力体制を築いている	年2回(1回は消防署の協力を得て)、昼夜想定火災避難訓練、通報訓練、消火訓練、避難経路の確認を実施している。利用者全員を誘導して避難する訓練を行っている。近所の人(3名)の協力を得られるようにしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スピーチロックの研修を基に、誇りを損ねない対応に改善できるよう話し合いながら、職員間での声かけや交代する体制づくりをしているが、継続の必要性を感じている	内部研修で学び、賞金は理解して、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応をしている。ユニット会議の中で、目上の人に対する言葉づかいについて話し合っており、不適切な対応等がないかを職員同士で確認している。個人記録は保管庫に入れ、取扱いに注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と一緒に過ごす時間を通して、自分で決められる環境作りを行い、先走らずに、言葉や行動を待つよう心掛けている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のスケジュールに入居者の生活を合わせるのではなく、入居者がテレビを見て楽しんだり、お話ししたりされるのを見守りながら、入居者独自のペースに沿った支援に努めている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	違和感のない身だしなみができるように支援している。男性・女性を問わず清潔感を感じられるような支援に努めている		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮な食材を取り入れ、入居者と職員が同じ食卓を囲んで、同じ物を食べながら見守りをしている。入居者一人ひとりの力が活かせるように調理の準備や片付け等のできる事をしてもらっている	法人の栄養士によるバランスのとれた献立で、三食ともユニットごとに食事づくりをしている。地元の玄米を1年分確保し、精米したり、毎日食材を利用者と一緒に買物に行き、新鮮な旬の物を使用している。家族から野菜の差し入れがある。利用者は野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、お茶を袋に入れる、下膳、食器洗い、お盆拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者の状態に合わせて、ミキサー食や刻み食、おかゆ、おにぎり等食べやすい形状に配慮し、食器やいりどりや盛り付けで見た目にも美味しく食べられるように工夫している。利用者と職員は会話しながら、同じテーブルで同じ物を食べている。誕生日には本人の希望のメニューを取り入れている。そうめん流しや弁当持参のハイキング、花見、おやつづくり(ホットケーキ、桜餅、焼き芋)、外食など、食べることを楽しむことができるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全体で入居者一人ひとりの食事量や水分摂取量は意識して関わり確保に努めている。食物形態は協力歯科医と連携を図り、力に応じた支援に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員全体が肺炎予防や清潔保持のため、口腔ケアの必要性を理解して取り組んでいる。協力歯科医の定期的な検診を受けて指導を得ている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレで排泄できるよう誘導を工夫している。行きたい時にトイレに行けるよう、本人の排泄リズムに沿った支援に努めている	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材を取り入れたり、散歩等の運動を働きかけ、自然な排便ができるよう取り組んでいる。また便秘等の状況をかかりつけ医に相談して予防に取り組んでいる		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は事業所が決めた時間帯で行っているが、曜日については希望に沿えるよう柔軟な対応をしている。入浴拒否がある入居者に対して、言葉かけや誘導のタイミング等を工夫しながら入浴しやすいような支援を心掛けている	入浴は毎日14時から16時半の間可能で、週3日は入浴できるように支援している。利用者の体調に合わせて、シャワー浴、足浴、清拭などの対応をしている。入浴したくない人へはタイミングをずらしたり、声かけを工夫して、入浴出来るように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状態に応じて休息を取り入れている。夜間は安眠して頂けるようおむつやパッド等は都度検討して改善していけるよう努めている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の飲み忘れや誤薬がないように確認作業をしている。薬の情報書を管理して服用の目的理解に努めている。症状の変化があればかかりつけ医に報告して指示を得ている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で力が発揮できるよう役割づくりを働きかけている。日々の生活の中で、気分転換できるように話ができる場や、生活リハビリできる場を作る支援を心掛けている	はり絵、ぬり絵、折り紙、季節の飾り、歌、カードゲーム、計算ゲーム、カルタ、ラジオ体操、お笑い体操、口腔体操、ボール投げ、ボーリング、テレビ視聴(のど自慢、歌謡コンサート)、DVD視聴、傾聴ボランティアとの会話、他の施設との合同運動会、クリスマス会、外出レクリエーション、洗濯物干し、洗濯物たたみ、廊下やフロアを掃除機で掃除、モップかけ、落ち葉掃き、ごみ袋の名前書き、食材の買物、野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、下膳、食器洗いなど一人ひとりの活躍できる場面づくりをして、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月一回は全員の外出支援を行っている。歩行困難な方でも車イス対応車にて外出支援を行っている。家族の協力を得て週一回の外出をして気分転換される方もおられる	近所の散歩や毎日の食材の買物、初詣、天神祭、イルミネーション見学、ミカン狩り、イチゴ狩り、ブドウ狩り、防災センター見学、ドライブ(中山湖、下松スポーツ公園、錦菓楼)、花見(桜、梅、バラ、あじさい、コスモス)、田んぼアートの見学、コンサート、外食など、月1回の外出支援をしている。家族の協力を得て墓参り、結婚式参加、一時帰宅、家族と外食など戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さを理解して入居者に管理を任せている場合もある。事業所で金銭管理をする場合は、預り金に関する契約を取り交わし、都度収支報告をして金銭の把握をして頂いている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りができるよう支援している。電話では内容により席を外す等の配慮をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く天窓もあり、自然な光や風を取り込める造りとなっている。季節を感じて頂けるよう旬の食材を提供し、季節に合った壁画を飾って目で見える季節を取り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている	木造平屋造りで2ユニットが自由に行き来できる。天井が高く、天窓から自然の光が差し込んでいる。リビングにはテーブル、椅子、ソファ、テレビを配置し、畳スペースもあり、利用者は思い思いの場所でくつろぐことができる。季節の花や季節の作品を飾って季節を感じることができる。台所からは、調理の音や匂いがして、利用者と職員は一緒に食事の準備をしているなど、生活感がある。明るさ、湿度、換気、温度管理に気を配り、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテーブルやイス、ソファを置き、畳のスペースでは畳に座って話をする等、仲のよい入居者同士でくつろげる環境を作り、思い思いに過ごせる居場所の工夫をしている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の馴染みのある物を置いて頂き、安心して過ごせるように配慮している。写真や使い慣れた物を見て、自宅とのギャップを感じさせないような工夫をしている	ダンスやテレビ、机、椅子、衣装ケース、ハンガーラック、仏壇、時計、本や書道の道具、化粧品など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、花や置物、家族や愛犬の写真、利用前の踊り姿の写真など飾り、本人が安心して居心地よく過ごせる工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで安全面での配慮して、できるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。できる事やわかる事を尊重して手を出し過ぎず自立した生活が送れるよう努めていきたい		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム 秀東館 虹

作成日：平成 30 年 6 月 17 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	前回は指摘を受け全職員での取り組みを目標に掲げていたが、全職員での取り組みまでに至っていない。	全職員で自己評価へ取り組む。	全職員へ向けて1ページずつ資料配布し記入してもらう。ユニット会議において検討を行う。	12ヶ月
2	14	外部研修を含めた計画的な研修の実施。	年間の研修計画を立て、講師を職員により行い、各人のスキルアップを図る。	外部研修において参加できるように研修の案内を行う。又施設内での研修は年間計画を立てているが、都度必要な研修ができるように管理者や介護支援専門員で話し合い、準備しておく。	12ヶ月
3	3.5	事故発生に備えて定期的な訓練は行っているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につける。	演習を取り入れた定期的な研修を行う。研修のレポートを出してもらい理解度を確認していく。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。